

△KINGLISH

第二十回

トッピング編（関係詞その3）

先行詞に注目

関係詞の特定レベルの組み合わせ



関係詞によって情報が追加される対象となる語句。

1. 基本的に関係代名詞の直前の語が先行詞となる
2. 先行詞になるのは名詞と代名詞
3. 関係代名詞の直前の文章全体が先行詞となる場合もある。

POINTS

- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
- 先行詞は特定する範囲を決める。
- その範囲の中で関係詞が特定する。

1. 関係詞の直前の語句

I met **a boy** who speaks French.

(私はフランス語を話す少年に会った。)

a boy は関係詞 who の前に来ているので先行詞になる。
who の後に続く意味の塊は a boy の説明をしているので S、
もしくは O に a boy が必ず当てはまる。

2. 先行詞になるのは名詞と代名詞

The guy that I met in Tokyo was amusing.

(私が東京で会ったその男は面白かった。)

the boy は関係詞 that の前に来ているので先行詞になる。
関係詞の後に続く意味の塊で先行詞が O の位置に当てはまる時は関係詞の省略が可能。

3. 文書全体が先行詞にもなる

I got a score of 100, which encouraged me a lot.

(私は 100 点を取った、それは私を大いに勇気づけてくれた。)

青字部分全体が先行詞になっている。
文全体を先行詞とする場合、関係詞は which を使う。



第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

先行詞、関係詞の組み合わせ

POINTS

- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
- 先行詞は特定する範囲を決める。
- その範囲の中で関係詞が特定する。

先行詞には冠詞がつくので
特定レベルが存在する

- 先行詞は特定する範囲を定める
- 関係詞は定められた範囲内で特定する
- 基本的に特定レベルは同じか先行詞の方が強くなる。



先行詞

零冠詞

SOME

a/an

the

王冠詞

《《《《《 特定している範囲を定める。

関係詞

which
who

that
関係副詞

コンマ付き
関係詞

《《《《《 定められた範囲の中からどの情報かを特定する。



第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

組み合わせの早見表

以下の6パターンがある。

無冠詞は性質上、関係詞がつきにくい

1. the × that
2. the × who, which
3. a/an × the
4. a/an × who, which
5. ※王冠詞 × コンマ関係詞
6. ※零冠詞 × that

- POINTS ▶▶▶
- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
 - 先行詞は特定する範囲を決める。
 - その範囲の中で関係詞が特定する。

1. the × that

認識されている範囲 (聞き手、話し手)
 認識されている選択肢 (一つだけ)

2. the × which, who

認識されている範囲 (聞き手、話し手)
 認識されている選択肢 (二つ以上)

3. a/an × that

認識されている範囲 (話し手だけ)
 認識されている選択肢 (一つだけ)

4. a/an × which, who

認識されている範囲 (話し手だけ)
 認識されている選択肢 (二つ以上)

※ . 無冠詞 × 関係詞

認識されている範囲 (大多数)
 認識されている選択肢 (一つだけ)



第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

the × that

認識されている範囲 (人数 : 2)

認識されてる選択肢 (数 : 1)

- the の認識している範囲は話し手と聞き手の二人である。
- that には選択肢がない。
- 共通認識である the 名詞は一つである。

- POINTS ▶▶▶
- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
 - 先行詞は特定する範囲を決める。
 - その範囲の中で関係詞が特定する。

I want you to be like **the guy that we met in Iga city yesterday.**

私はあなたに昨日伊賀市で会った男のようになって欲しい。





第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

the × which, who

認識されている範囲 (人数 : 2)

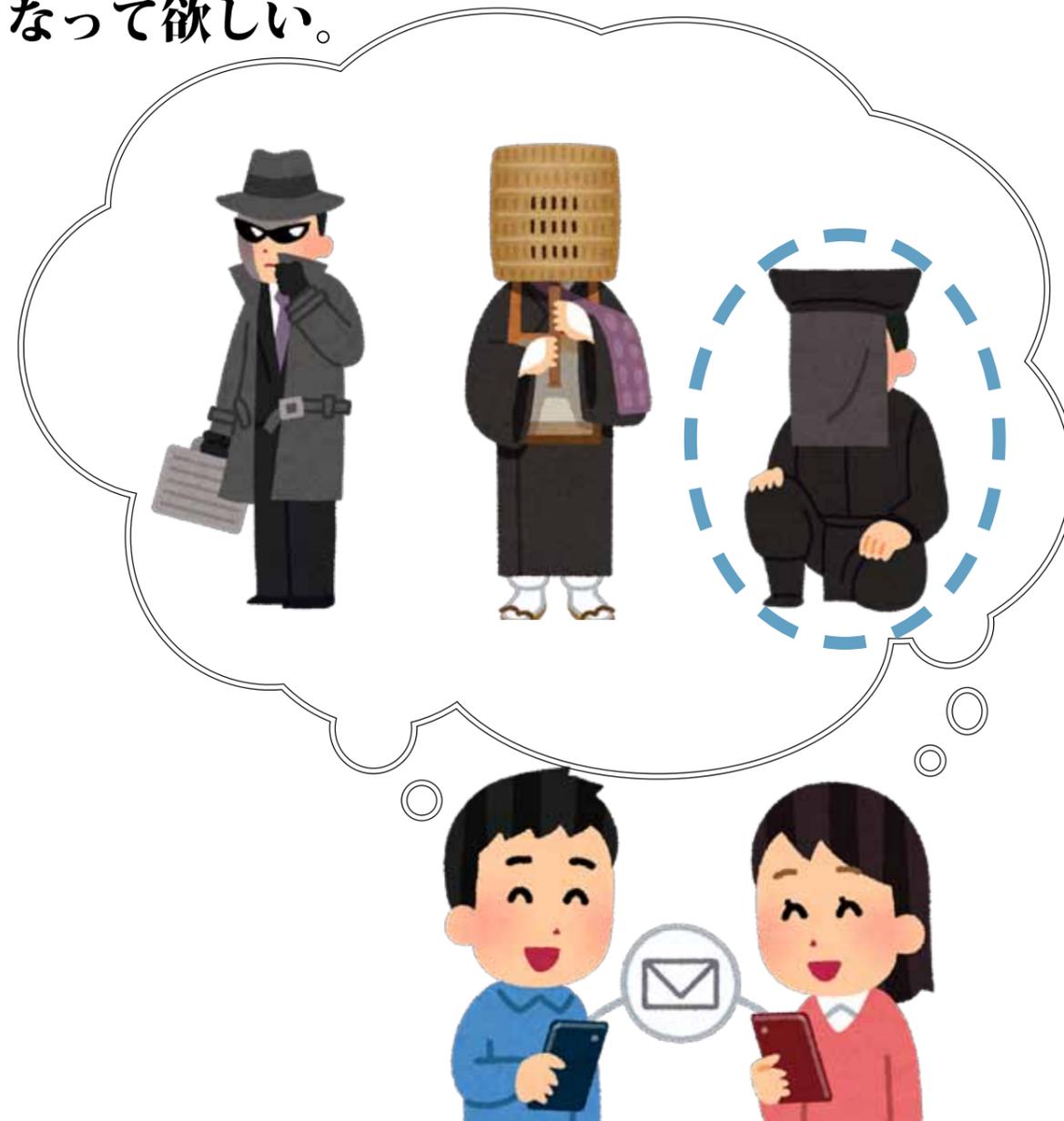
認識されてる選択肢 (数 : $2 < X$)

- the の認識している範囲は話し手と聞き手の二人である。
- which, who には二つ以上の選択肢から一つを取り出す意味がある
- 共通認識である the 名詞は二つ以上ある。

- POINTS ▶▶▶
- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
 - 先行詞は特定する範囲を決める。
 - その範囲の中で関係詞が特定する。

I want you to be like **the guy who**
we met in Iga city yesterday.

私はあなたに昨日伊賀市で会った男のよう
になって欲しい。





第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

a/an × that

認識されている範囲 (人数 : 1)

認識されてる選択肢 (数 : 1)

- a/an の認識している範囲は話し手一人である。
- that には選択肢がない。
- 話し手だけが認識している a/an 名詞は一つである。

- POINTS ▶▶▶
- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
 - 先行詞は特定する範囲を決める。
 - その範囲の中で関係詞が特定する。

**I want you to be like a guy that
I met in the Iga city yesterday.**

私はあなたに昨日伊賀市で会った男のよう
になって欲しい。





第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

a/an × which,who

認識されている範囲 (人数 : 1)

認識されてる選択肢 (数 : $2 < X$)

- a/an の認識している範囲は話し手一人である。
- which,who には二つ以上の選択肢から一つを取り出す意味がある。
- 話し手だけが認識している a/an 名詞は二つ以上ある。

- POINTS ▶▶▶
- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
 - 先行詞は特定する範囲を決める。
 - その範囲の中で関係詞が特定する。

I want you to be like a **guy who**
I met in the Iga city yesterday.

私はあなたに昨日伊賀市で会った男のようになっ
て欲しい。





第二十回 トッピング編 (関係詞その3)

無冠詞 × 関係詞

認識されている範囲 (人数 : 多数)

認識されてる選択肢 (数 : 1)

- 無特定 (王冠詞) の認識している範囲は誰でも知っているので計り知れない。
- コンマと which, who を使うが、誰でもわかっていることなのでおまけ情報のような扱い。
- 零冠詞、王冠詞のイメージは常に一つである。

POINTS

- 先行詞と関係詞は常に隣り合わせ。
- 先行詞は特定する範囲を決める。
- その範囲の中で関係詞が特定する。

Napoleon, who was the emperor of French in the 19th century, was so handsome.

19世紀のフランス皇帝の、ナポレオンはとてもイケメンだった。

